

3月の植物

ヤブツバキ (ツバキ科)

Camellia japonica

常緑性の高木。普通は高さ 5-6m だが、高いものでは 15m に達する高木もある。ただしその成長は遅く、寿命は長い。樹皮はなめらかで灰白色、時に細かな突起がまばらに出る。枝はよくわかる。冬芽は線状楕円形で先端はとがり、円頭の鱗片が折り重なる。鱗片の外側には細かい伏せた毛がある。鱗片は枝が伸びると脱落する。葉は互生、長楕円形から広楕円形、鋭尖頭（先端が突き出す）で、葉脚は広くさび形、縁には鋸歯が並ぶ。葉質は厚くて表面につやがあり、濃緑色で裏面はやや色が薄い。

花期は冬から春にかけて、早咲きのものは冬さなかに咲くが、普通は 2~4 月にかけて咲く。佐賀県では各地の山野に普通にみられる。特に海岸近くに多い。加唐島等では植栽あるいは本種のみを切り残し、種子を採集しツバキ油をとる。名前についてはツバキは厚葉木、葉が厚いのでアツバギからツバキとなったと言われる。椿は中国の樹木名から来たのでなく、春に花咲く木の意味で椿と書くとも言われる。

我が家の庭にも 3~4 m のツバキが今、咲き誇っている。メジロがやってきて花の蜜を美味しそうに吸っている姿を見ると心が癒される。人間だけでなく小鳥たちもツバキの恩恵を受けているようだ。佐賀県の方言ではアカツバキ、カタシ、カチャシ、カチャーシ、カチャシノキなどがある。

(小池 英毅)



(2019年2月26日、白石町 稲佐神社)